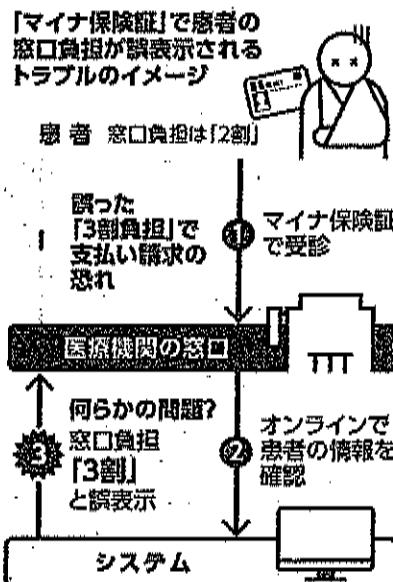


8/21
東京

マイナ保険証 窓口負担誤表示続出

全容不明 気づかぬまま払った患者出る可能性



千葉市で6月に見つかった。その後、各地でも判明。全国保険医団体連合会が医療機関に聞き取り調査（7月14日～8月1日）をしたところ、21都府県の計370機関からトラブルが報告された。

千葉県船橋市の診療所では、70歳以上の高齢者がマイナ保険証を使ったときに、「3割負担」と誤表示されるトラブルが4月から相次いで起きた。患者が受け付けの際

システムに欠陥か

「マイナンバーカードと健康保険証を一体化した「マイナ保険証」で、患者が医療機関の窓口で使われる際、本来とは違う患者負担が表示されるトラブルが続出している。厚生労働省が調査する方針だが、現状ではミス全体の規模は把握できていない。医療現場からは不安の声が上がっている。

さらに千葉市で最初に発覚したトラブルは、市職員がシステムを把握していないかったことによる入力ミスが原因とみられ、市内ではその後も同様のミスが数件見つかって。同省は「千葉市と同様のシステムを入れているところではミスが発生している可能性がある」(国民健康保険課)とする。

実際にトラブルに巻き込まれた診療所の担当者は「保険証を信じればいいのか、マイナ保険証を信じればいいのか」と話す。同省はトラブルの主な原因是システム上の連携の不具合や自治体職員らの入力ミスにあるとみるが、「すべてのケースを把握していないかもしない」(担当者)。調査のうえ対策を検討している。(村井隼)

入力ミスでも発生

ム上そつなつてしまい」と回答されたという。その後、9月に改修すると返事があったという。75歳以上の後期高齢者医療でもトラブルが起きている。神奈川県後期高齢者医療広域連合には「マイナ保険証の負担割合の登録が間違っている。ただ、広域連合の登録されていないといい、担当者は「コンピュータ」とマイナ保険証の間で何かトラブルがあるのではないか」とみている。6月には神奈川県や同県内の市町村などと連名でトラブル解決を求める要望書を厚生労働省に提出。しかし現時点では國から原因は知らないわらず、「これ以上はひりしようもない」と困惑する。厚生労働省によると、診療報酬請求を行なうコンピューターと連携する際に誤って独自の負担割合を算出するミスが一部で生じる可能性があるという。ただ、こうした問題の注意喚起はシステム業者のみが閲覧できるサイト内に限られる。本人が気づかないまま、誤った金額で支払っている可能性もあるが、医療機関や患者に積極的に広報していく。